



244

この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2025年1月5日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部

論点

2025年の指針 「正念場の政党政治」

8日(水)＝オピニオン面



自民党副総裁などを務めた大島理森・元衆院議長

新しい年を迎えました。国内では少数与党による政権運営が続きます。米国で再び大統領に就くトランプ氏の動向に世界が注目しています。私たちは、混迷の時代にどう向き合えるのでしょうか。

シリーズ「2025年の指針」では、政治、外交、教育、文化などの第一人者の論考を紹介します。

初回は、自民党副総裁などを務

めた大島理森・元衆院議長です。選挙に対するSNSや動画の影響が大きくなった現在、「政党政治」の意義を改めて語ってまいります。



特集ガイド

混迷の時代に 阿刀田高さん

6日(月)＝夕刊2面

今や日本の衰退は隠しようもありません。隣国の脅威が叫ばれ、人工知能(AI)の進展は社会のあり方を根底から揺さぶっています。つまり、混迷と不安の時代なのです。現代の日本人を励ます言葉を授けてもらえないだろうか。記者は、楽天家の作家、阿刀田高さん(89)＝写真＝に尋ねました。



阪神大震災で橋脚部分から横倒しになった阪神高速神戸線＝神戸市東灘区深江本町で1995年1月17日、本社ヘリから撮影

そこが聞きたい

文学館のあり方 荻野アンナさん

5日(日)＝くらしナビ面



「本離れ」が言われて久しい中で、作家や文学作品の資料を展示する「文学館」が果たす役割とは何でしょうか。国内最大規模を誇り、創立40年を迎えた横浜市中区の神奈川近代文学館の6代目館長に昨春、作家の荻野アンナさん＝写真＝が就任しました。

「文学館を本や作家との出会いの場にしてほしい」。仏文学者でもあり、無類の落語通として知られる荻野さんが、斬新な展示やイベントのアイデアを語ってくれました。

「被災者生活再建支援制」や地震でも変わっていません。避難所の状況は、能登半島被災者が雑魚寝していたら、1995年の阪神大震災から6434人が亡くなった1995年の阪神大震災か

度」といった震災がきっかけとなった概念や制度もあります。震災の課題や教訓は、その後の30年間の災害で生かされてきたのでしょうか。全6回の連載で迫ります。

阪神大震災30年硬派連載

11日(土)～11、3面

竹橋の窓辺から

編集後記



お正月休みはお孫さんや親戚のお子さんやゆっくり過ごした方もいらっしゃるかと思います。離れて暮らす大切なご家族に、毎日小学生新聞のプレゼントはいかがでしょう。住む孫へ贈りたい」という声を受けて、毎日新聞社では「毎小ギフト購読」の専用ウェブサイトを作成しました。詳しいお申し込み方法はQRコードからぜひご覧ください。(斎藤広子)



毎日新聞